

「大阪府済生会野江病院」見学レポート

大阪がん医療の向上をめざす会

2011年10月17日（月）に、大阪府済生会野江病院を見学させていただきました。3時から5時の予定が、医療者の皆さんとのお話が尽きず20分もオーバーしてしまい、病院側には大変ご迷惑おかけしてしまいました。

1. 参加者：西村慎太郎 森洋子 辻恵美子 渡邊美紀 中村弘子 山本ゆき
2. 対応してくださった医療者の皆様： 堂前尚親院長 足立幸人副院長 上田勇人事務部長 米須久美看護部長 水谷ひとみ看護師長（米須看護部長と水谷師長の順番を入れ替えました） 竹内弘之・地域医療支援センター兼地域医療連携室課長 倉友克美社会福祉士（ケースワーカー）、他に、各部署の医療者の皆様

3. 見学報告

1) 済生会野江病院の施設・サービスについて

この日は、「外来患者さんの満足度アンケート」が行われていて、アンケート用紙には①待ち時間について②医師について③看護師について④その他の職員について⑤院内のアメニティについての質問項目がありました。年1回、外来患者さんと入院患者さんにアンケートを行い、「意見箱」も置かれているとのことで、患者さんとしっかりと向き合う姿勢を感じました。

最新のIT機器を完備した会議室で、最初に、上田勇人事務部長から病院の概要の説明がありました。創設60周年を迎えた野江病院は、今年平成23年5月に、新築された病院に移行しました。城東区と鶴見区の80%、隣の旭区を入れると90%の地域住民に医療を提供し、無料・低額診療事業も行っているとのことでした。

地域医療の基幹病院として、連携を重視し、病診連携の登録医は192施設にのびります。地域の特徴として、循環器系の病気や脳卒中の患者が多いとのことで、近隣には急性期・慢性期病院も少なく、野江病院は、すべての患者を受け入れるため、診療科の数は28あります。これまで、待ち時間が長かったのですが、新病院では各科のブースを一部屋増やし、Drを12名増やすなど、待ち時間の短縮を図っています。医療者の皆さんは、「よろず病院」と呼んでおられました。

駅から少し離れているので巡回バスを運行、また、自転車置き場も十分に確保し、住民の皆さんの利便を図り、院内においては、快適な環境づくりにも取り組み、皿谷美子画伯の目に優しい絵画15枚が壁に掛けられ、院内緑化にも力を入れておられます。

関連施設として、

訪問看護ステーション

居宅介護支援事業所

大阪済生会 野江看護専門学校

などが、旧病院敷地なども活用し開設されています。

2)がん医療について

平成21年4月に大阪府がん診療拠点病院に指定され、今年の9月からは放射線の定位照射リニアックやシャトル・スキャンで4D画像が撮れるCT装置も導入しました。これまでは、がん患者は全患者集の約20%でしたが、今後、最新の機器の導入や医療スタッフの充実で、患者さんが増えていくことが期待されます。

概要の説明をいただいた後、実際に見学をさせていただきました。以下、見学させていただいた部屋やその場でお聞きした内容などに関してメンバーから寄せられた感想です。

■病理検査室

普段、私たちが目にすることのない部屋に入れていただきました。手術室の奥にあり、病理説明室（家族向け）も備えられ、外科治療が熱心に行われている様子がよくわかりました。病理の結果は、高精度の画像モニターを用いたキャンサーボード（外科・内科別）のカンファレンスで活かされます。

病理検査室のシステムを見る限り、30年前の病理検査室とそう変わっておらず、この分野は機器による自動化ができない分野だと思いました。臨床検査室や生理検査室を見学できませんでしたが、このようなところは自動化（デジタル化）が相当進んでいると思われます。

■外来化学療法室

通院化学療法室がゆったりとしていて、13台のリクライニングと2台のベッドがありました。スペースはゆったりとしていて、圧迫感はありませんでした。トイレが横にあり便利です。トイレトペーパーにはミシン目が入っていないとのことでした。もし、そうであれば、ミシン目付きにしていただけたら、患者さんは片方の手でもペーパーを切りやすいと思いました。

■薬剤科

調剤室のドラフトチャンバー（薬剤飛散防止装置）が2台あり、患者ごとの使用薬剤自動仕分け機には感心しました。薬剤用カルテが最終的に決定されると、システム設定に従ってコンピュータが量を割り出し、量を自動で配分する装置は最新1号で、ダブルチェックなど管理が行き届いていました。化学療法委員会も設置して、医療ミスを防ぐ、細心の注意を払っていることがよくわかりました。

■放射線診断室

この9月28日から定位照射リニアック、それに連動したCシャトル・スキャンで4D画像が撮れるCT装置、位置決め用のレーザービーム装置などが整備されていて驚きました。

ハード面では強度変調定位放射線治療もできるとのことですが、今はまだマンパワーが不足しているとのことで、一日もはやく、スタッフを充実させて、実際の治療に力を発揮してもらいたいと思いました。

64列CTが2台、MRIも備えられ、どのように有効活用されているかもう少し知りたいと思いました。

放射線治療のアフターケアはがん患者にとって必須ですが、照射後1ヶ月、3ヶ月、1年の経過診察をしているとお聞きし安心しました。

肝がんの治療は、HPを見る限り少数。消化器内科医が少ないせいだろうと思いました。

■オペ室 9部屋（中規模医療施設で9部屋は多い方だと思います）

内視鏡治療もセンター化をしていて充実、ICU、CCUも毎日満床で、脳血管障害のSCU（超目玉と力説）も完備されています。無菌室は、空中の埃についているカビを除去するフィルターが天井に取り付けられていました。

■緩和ケア

緩和ケア病棟はありませんが、緩和ケアの専門看護師が患者さんの相談にのっているとのことでした。連携登録医の数は多いものの、野江病院での治療が終わって、地域の診療所や在宅に移る患者さんのケア・フォローは十分にはできていないとのこと。バックアップしなければと思うが、今は、過渡期ではないかとのことでした。地域の情報がもっと入ってくるシステムの必要性を感じておられました。

■料金

病室（個室）の料金も、セカンドオピニオンの料金も安く抑えられているという感じがしました。

■広報

緩和ケア外来、セカンドオピニオン外来、カウンセリングなど、わかりやすいチラシで患者に優しい案内でした。

3) その他

■トイレ

トイレのドアが外に開くので外に人がいたら危険なのと、ドアが閉まっているので、前まで行かないと使用中なのかどうか分からない不便さを感じました。

■喫茶室

規模が小さく、メニューも非常に少なく、患者さんが食事をするのでしたらせめておうどんやご飯のメニューがないと皆さん不便を感じられているのではと思いました。スペースで苦勞されているという感じでした。

■ボランティア 募集中

■患者図書室

ないとのことでした。

■残念だったこと

時間の関係（見学者の発言時間が多く）で、一般病棟や相談支援センターを見せていただくことができず、臨床心理士さんや地域連携担当の方とお話もできませんでした。

4. まとめ

今年1月にめざす会が新体制となってから初めての病院見学でした。私たちの質問の内容を整理して、効率的にお話を伺わなければならなかったと反省しております。「病院の得意分野は？」の質問に、「地域性もありますが、いつでも、どこでも、疾患を選ばず、来る者拒まず診るところです。」と迷わず答えられた副院長先生のお言葉の中に病院のほっこり温かい思いを感じました。各部署でも、職員の皆さんが熱心に、親切に説明してくださり、院内の雰囲気の良い感じが感じ取れました。

国指定と違い、府の指定病院には公的な財政的支援が何もない中で、地域のがん医療の向上のために奮闘されておられる野江病院の堂前院長先生はじめ医療者・スタッフの皆様には、がん患者・家族・遺族として本当にありがたいと思いました。

野江病院の皆様、ご協力を本当にありがとうございました。